

ワイヤロープに関する技術的検証結果中間取りまとめ（案）

○土工区間、中小橋とも、飛び出し防止性能についての信頼性は高く、高い事故防止効果を発揮している。

○また、土工区間については、走行性、維持管理、緊急時対応において大きな課題が生じておらず、技術的に実用化が可能である。

○その際、以下の事項に留意する必要がある。

・これまでラバーポール区間では顕在化していなかったワイヤロープへの接触による車両損傷及び通行止めが増えていることから、

- ① 接触率の低減が確認された導流レーンマークを、適切な走行位置となるよう設置すること
- ② 接触車両の損傷軽減化を図るため、更なる技術開発に努めること
- ③ 復旧時間を短縮するため、更なる技術開発に努めること

・冬期には、事故車両等により滞留車両が発生する可能性があることから、

- ① 積雪時における、開口部設置の時間を短縮するため、更なる技術開発に努めること

○中小橋については、特に曲線部において支柱の固定方法に課題が見られるため、試行設置箇所を拡大し、夏期の高温下も含めた舗装との定着部の耐力確保など、実用化に向けた取組みを進める必要がある。

○長大橋・トンネル区間については、現在実施している公募選定技術の性能検証を引き続き進める。